

観光動向調査報告書

〔 平成29年1月～6月期実績
平成29年7月～12月期予測 〕

平成29年 6月
草津町商工会

I 調査の目的

この調査は、商工会地区内の観光客の動向予測を行い、その分析結果を元に小規模事業者の支援策を検討する基礎資料とすると共に、直面する経営課題解決の支援に向けて商工会の経営改善普及事業が効果的に実施されることを目的としている。

なお、本報告書のD・I値とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index、景気動向指数）の略であり、増加（上昇・好転・長期化）企業割合から減少（低下・悪化・短期化）企業割合を差し引いた値を示すものである。

D・Iがプラス（+）なら……強気（楽観）

D・Iがマイナス（-）なら……弱気（悲観）

（例）売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、D・I指数……50% - 20% = 30%となり、全体としての経営者の売上に対する強気の度合いを表している。

1. 調査内容

草津温泉旅館協同組合に加盟の112件の宿泊業者を対象に、平成29年1月～6月期の業況についてアンケート形式での調査を実施した。主な内容は、地域全体の「日帰り客数」「宿泊客数」「消費額」および、外国人旅行者の「宿泊者数」「国別外国人宿泊者数」「消費額」である。回答を得た事業所数は44社であり、地域の旅館協同組合加盟社の39.2%に該当数する。

調査対象施設

宿泊施設の形態	企業数	回答企業
旅館・ホテル（小規模：30室以下）	93	31
旅館・ホテル（中規模：31～99室）	11	4
旅館・ホテル（大規模：100室以上）	8	4
記載なし		5
合 計	112	44

○回答率：39.2%

2. 調査期間

平成29年4月～平成29年6月。

3. 調査方法

調査対象企業への商工会経営指導員による聞き取り面談調査。

旅館組合および観光協会への照会によるデータ集計。

4. 比較分析参照資料

国土交通省 観光庁

観光統計 平成28年 宿泊旅行統計調査

群馬県産業経済部観光局観光物産課

平成28年 観光客数・消費額調査

草津温泉旅館協同組合 平成28年 外国人入込客数調査

II 群馬県内の観光動向調査分析

1. 観光入込客数の動向と推移

県内の全観光地点（観光行事）について、県内 35 市町村へ照会し集計を行った結果、観光入込客数は、63,993 千人で対前年比 1,762 千人減、2.7%減となった。

【観光入込客数の推移】

(単位：人)

年度	観光客総数	県内客数	県外客数	日帰り客数	宿泊客数	前年度比	
						観光客総数増減	増減率(%)
22	59,811,600	34,189,700	25,621,900	52,655,000	7,156,600	▲439,300	99.3%
23	58,809,800	34,230,200	24,579,600	51,669,400	7,140,400	▲1,001,800	98.3%
暦年	観光客総数	県内客数	県外客数	日帰り客数	宿泊客数	前年比	
						観光客総数増減	増減率(%)
24	60,141,200	34,778,800	25,362,400	52,713,800	7,427,400	—	—
25	61,509,200	35,650,200	25,859,000	53,934,800	7,574,400	1,368,000	102.3%
26	61,807,100	35,252,900	26,554,200	54,272,600	7,534,500	297,900	100.5%
27	65,754,000	37,339,200	28,414,800	57,984,600	7,769,400	3,946,900	106.4%
28	63,992,400	36,561,400	27,431,000	56,396,700	7,595,700	▲1,761,600	97.3%

※参考資料：群馬県産業経済部観光局観光物産課 平成 28 年 観光客数・消費額調査

全体としては減少しているが、平成 27 年よりも 10 万人以上観光入込客が増加した市町村と主な要因として、以下の 6 市町村があげられる。

【平成 27 年よりも 10 万人以上観光入込客が増加した市町村と主な要因】

市町村	増加数(千人)	主な要因
高崎市	+237	歴史博物館のリニューアルオープンや保渡田古墳群の入込客が増加したため
伊勢崎市	+170	七夕まつりで天候に恵まれ、華蔵寺遊園地で入込客が増加したため
桐生市	+143	人気動物（ライオン・ペンギン・カピバラ）の入園により桐生が岡動物園と桐生が岡遊園地で入込客が増加したため
玉村町	+142	道の駅玉村宿で平成 27 年 5 月のオープンから認知度が向上したため
みどり市	+141	市制施行 10 周年事業を実施したため
草津町	+109	湯畑周辺の整備やマスコミに取り上げられたため

※参考資料：群馬県産業経済部観光局観光物産課 平成 28 年 観光客数・消費額調査

また、県内の主要温泉地の観光入込客数では、全体的に減少傾向のなかで草津温泉が前年対比 3.7%の増加となっている。

【主要温泉地の観光入込客数】

温泉地名	観光入込客数		対前年増減 (千人)	対前年比 (%)
	H28(千人)	H27(千人)		
草津温泉	3,074	2,965	+109	103.7%
伊香保温泉	1,436	1,505	▲69	95.4%
水上温泉	1,946	2,227	▲281	87.4%
四万温泉	359	367	▲8	97.8%
老神温泉	182	187	▲5	97.3%
磯部温泉	167	204	▲37	81.9%
やぶ塚温泉	41	42	▲1	97.6%
猿ヶ京温泉	179	180	▲1	99.4%
万座温泉	461	467	▲6	98.7%
計	7,845	8,144	▲299	96.3%

※参考資料：群馬県産業経済部観光局観光物産課 平成 28 年 観光客数・消費額調査

2. 観光消費額の動向と推移

県内全体の観光消費額は 88,839 百万円で、対前年比 3,059 百万円減少（▲1.6%）と減少した。

【観光消費額の推移】

（単位：千円）

年度	観光消費総額	日帰り客消費額	宿泊客消費額	前年度比	
				観光消費額増減	増減率(%)
22	191,529,423	104,630,395	86,899,028	▲2,580,657	98.7%
23	185,345,930	100,317,677	85,028,253	▲6,183,492	96.8%

暦年	観光消費総額	日帰り客消費額	宿泊客消費額	前年比	
				観光消費額増減	増減率(%)
24	189,112,294	102,996,049	86,116,245	—	—
25	185,398,899	100,888,866	84,510,033	▲3,713,395	98.0%
26	184,368,491	100,138,960	84,229,531	▲1,030,408	99.4%
27	191,898,133	102,024,104	89,874,029	7,529,642	104.1%
28	188,838,884	99,017,965	89,820,918	▲3,059,249	98.4%

全体の消費金額は前年に比べ減少しているが、観光客一人当たりの消費単価では宿泊客が 257 円の増加となっている。

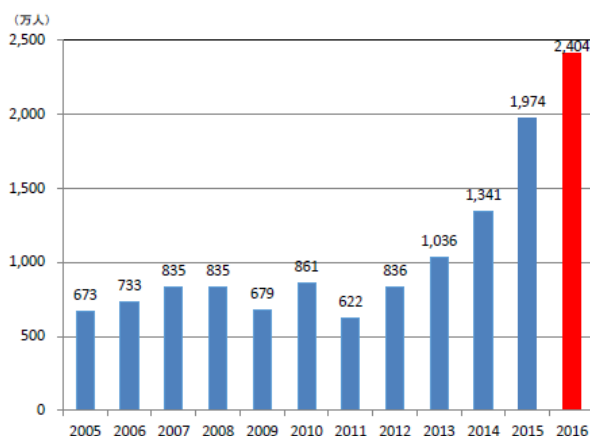
観光客 1 人当り消費単価	金額(円)		対前年増減 (円)	対前年比 (%)
	H28	H27		
日 帰 り 客	1,756	1,760	▲4	99.8%
宿 泊 客	11,825	11,568	+257	102.2%

※参考資料：群馬県産業経済部観光局観光物産課 平成 28 年 観光客数・消費額調査

3. 外国人旅行者の動向と推移

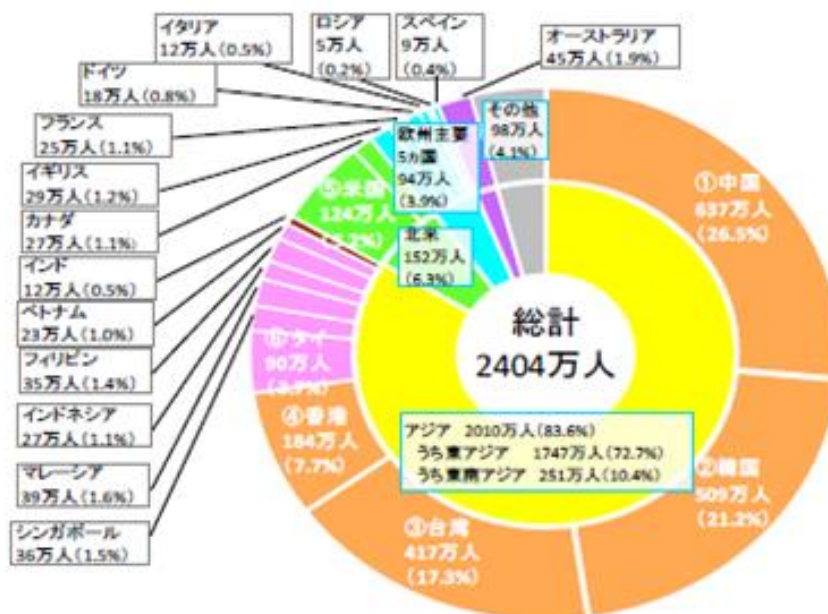
2016 年（平成 28 年）の訪日外国人旅行者数は、2,404 万人（対前年比 21.8%増）となった。訪日外国人旅行者数の内訳は、アジア全体は 2,010 万人（全体の 83.6%）、東アジアでは 1,747 万人（全体の 72.7%）となり、ASEAN 諸国（6ヶ国）でも 251 万人を突破（全体の 10.4%）、北米も 152 万人を超え、欧州主要 3 か国（英・仏・独）も 73 万人を超えた。

（図）訪日外国人旅行者数の推移



資料：日本政府観光局(JNTO)資料に基づき観光庁作成

(図)訪日外国人旅行者数の内訳(2016年(平成28年))



※参考資料：国土交通省 観光庁 観光統計 平成28年 宿泊旅行統計調査

外国人延べ宿泊者数は、6,939万人泊で調査開始以来の最高値となっており、前年比5.8%増、調査を開始した平成19年と比較すると約3倍となっている。

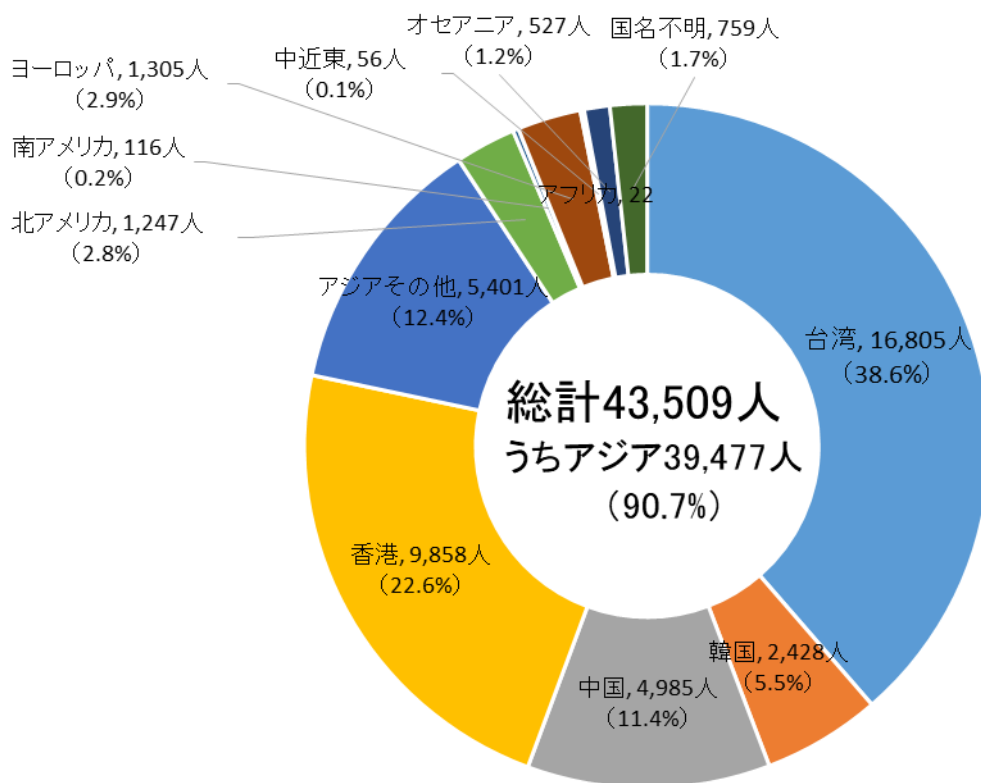
三大都市圏と地方部(※1)で外国人延べ宿泊者数の対前年比を比較すると、三大都市圏で+3.4%、地方部で+9.5%と、地方部の伸びが三大都市圏の伸びを上回っている。都道府県別の数値を見ると、群馬県は214,350泊で、前年比33.7%増となっている。

※1) 三大都市圏とは、「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の8都府県をいう。地方部とは、三大都市圏以外の道県をいう。

施設所在地	延べ宿泊者数	前年比
全国	69,388,940人	+5.8%
群馬県	214,350人	+33.7%

※参考資料：国土交通省 観光庁 観光統計 平成28年 宿泊旅行統計調査より抜粋

草津町 外国人宿泊者数の内訳(2016年(平成28年))



草津町	外国人宿泊者数	前年比
平成 27 年度	31,633 人	+61%
平成 28 年度	43,509 人	+38%

※参考資料：草津温泉旅館協同組合 平成 28 年 外国人入込客数調査書

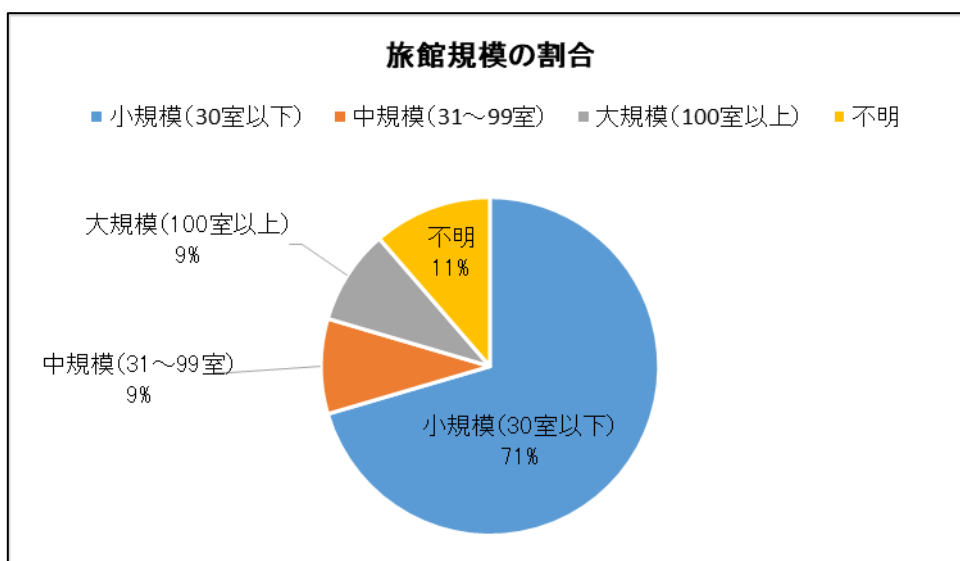
草津町の外国人延べ宿泊者数は、43,509人泊で最高値となっており、前年比38%増、調査を開始した平成16年と比較すると3.4倍となっている。

群馬県に訪れている外国人宿泊者数のうち20%の外国人が草津に宿泊していることがわかった。また、草津町を訪れた外国人旅行者の内訳をみると、台湾38.6%、香港22.6%、中国11.4%、韓国5.5%、その他のアジア12.4%となっており、外国人旅行者の9割がアジアを中心としていることがわかった。

Ⅲ 草津地域内の観光動向アンケート調査分析

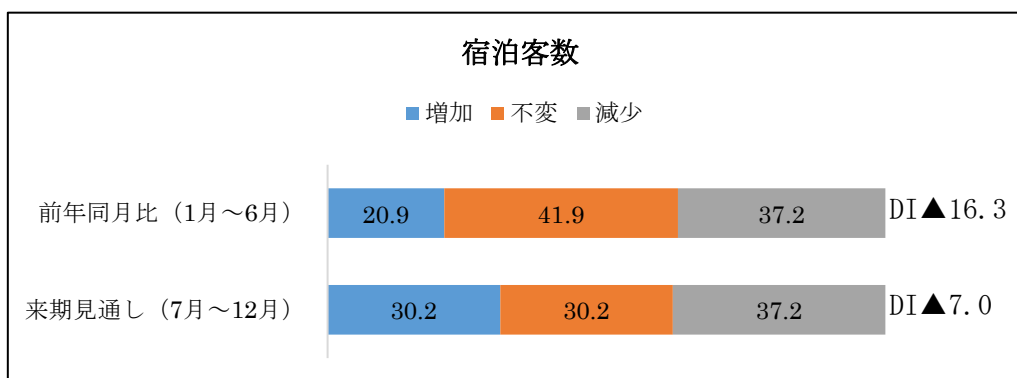
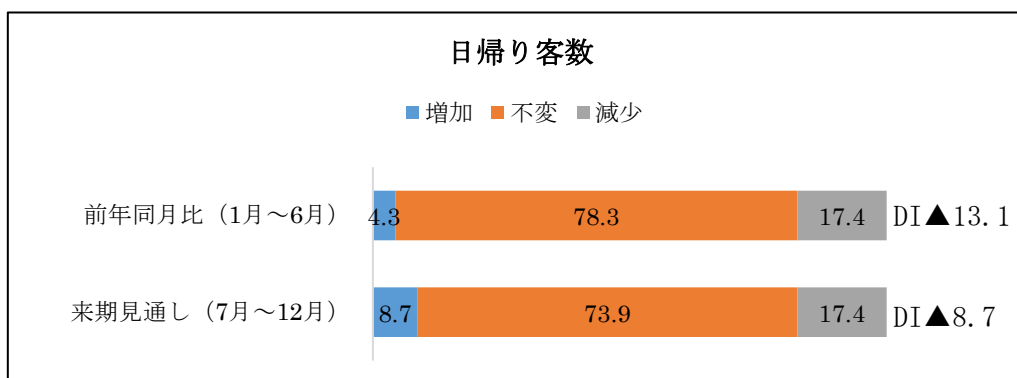
1. 観光入込客数の動向と推移

問 1. 貴社の旅館規模について、当てはまるものに○印をお願いします。



草津地域内の宿泊施設は、小規模（30室以下）71%と最も多く、次いで中規模（31～99室）と大規模（100室以上）が同等となっている。

問 2. 客数について伺います。該当する月について当てはまるものに○印をお願いします。

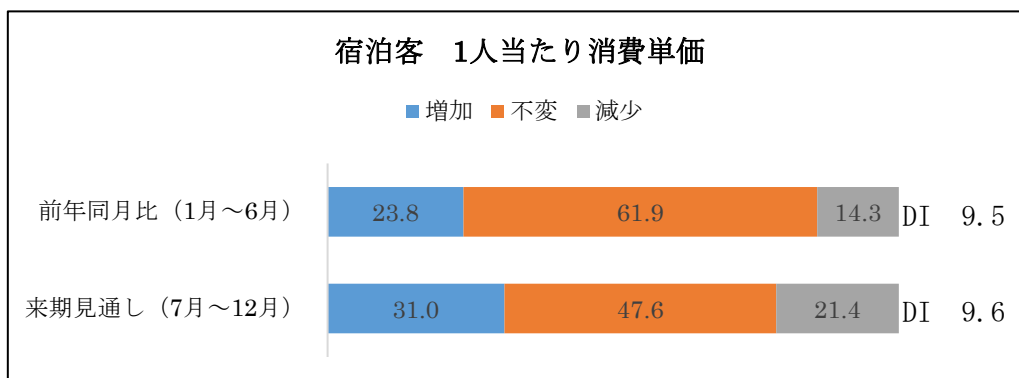
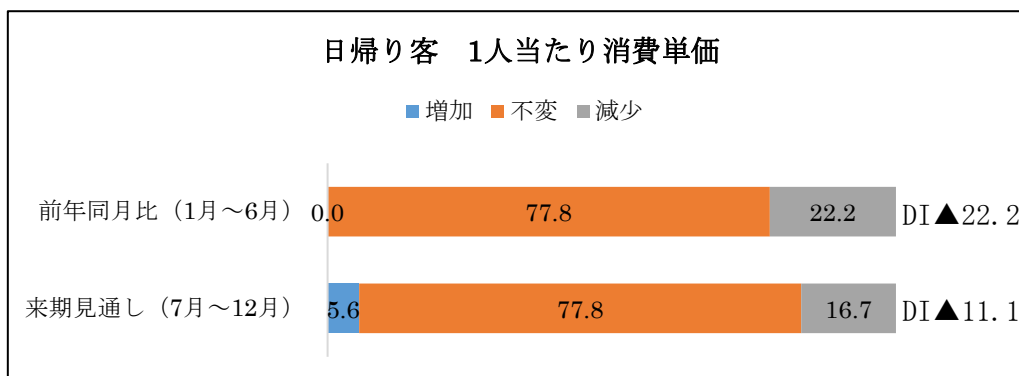


前年と比べ、日帰り客数▲13.1、・宿泊客数▲16.3とそれぞれ減少しているが、来期予想はマイナス領域ながらも日帰り客数が4.4ポイント、宿泊客数が9.3ポイントの改善を見込んでいる。

2. 観光消費額の動向と推移

問3. 観光客1人当りの平均消費単価のご記入をお願いします。

また、該当する月について当てはまるものに○印をお願いします。



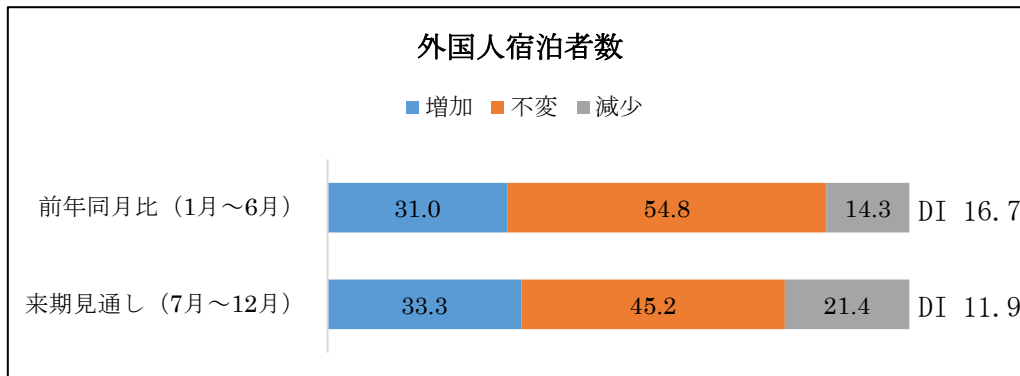
観光客一人当たり消費単価	金額(円)
日帰り客 (1月～6月)	1,285
宿泊客 (1月～6月)	10,319

日帰り客の消費単価は前年と比べ、▲22.2と大幅に減少しているが、宿泊客は9.5ポイントの増加となっている。日帰り客の消費単価の来期予想は、マイナス領域ながらも11.1ポイントと大幅な改善を見込んでおり、宿泊客においても今期同様を見込んでいる。

また、観光客一人当たりの消費単価では、群馬県全体の前年度消費単価に比べ、日帰り客が471円少なく、宿泊客でも1,506円低い単価であることがわかった。

3. 外国人旅行者の動向と推移

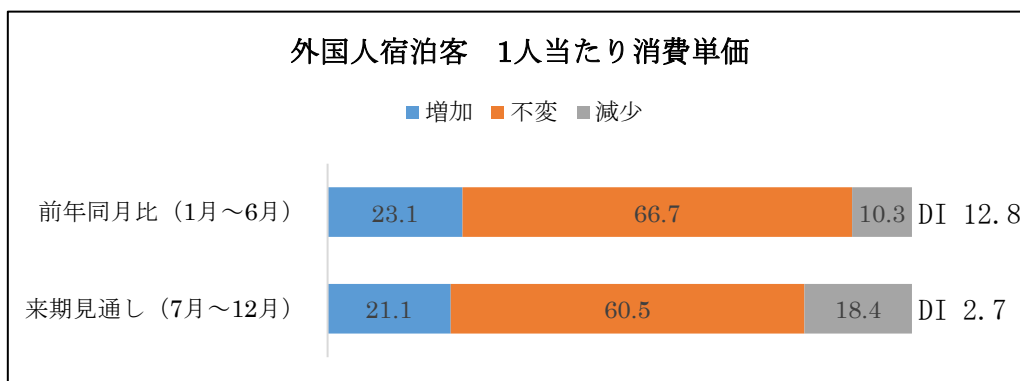
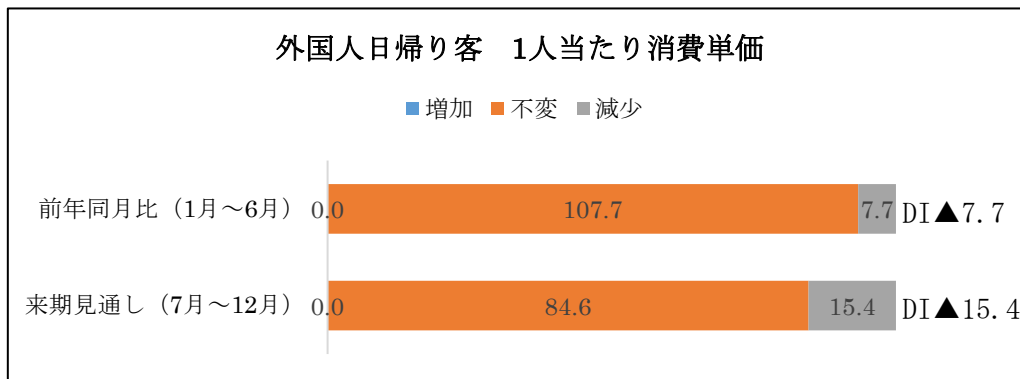
問 4. 外国人宿泊者数について伺います。該当する月について、該当する月について当てはまるものに○印をお願いします。



外国人宿泊客数は前年と比べ、16.7ポイントの増加となっている。来期予想は4.8ポイントの減少を見込んでいる。

問 5. 外国人旅行者 1 人当りの平均消費単価のご記入をお願いします。

また、該当する月について当てはまるものに○印をお願いします。



外国人旅行者一人当たり消費単価	金額(円)
日帰り客 (1月～6月)	1,285
宿泊客 (1月～6月)	10,319

外国人旅行者の日帰り客消費単価は前年と比べ、▲7.7と減少しているが、宿泊客は12.8ポイントの増加となっている。日帰り客消費単価の来期予想は、▲15.4となっており、今期よりも更に減少を見込んでいる。また、宿泊客においても今期よりも10.1ポイントの減少を見込んでいる。

問6. 上記の対比を総合的に判断し、増加・減少などの理由として考えられる要因をご記入ください。

- ・ほとんど外国人客はいません。
- ・客数の増加については草津がメディアに取り上げられることが多く、若い人たちの旅行先として選ばれているのではないのでしょうか。
- ・客単価の減少については、プランの中で少しでも安いプランを選んでいる。リーズナブルに旅行を使用としている様子が見える。
- ・外国人の宿泊が減少してきている。
- ・一部トイレの改修を実施できたので宿泊単価の値上げができた。
- ・宿泊の形態で素泊まりが増えた。
- ・単価減に関しては、2食付き→夕食無し・素泊まりへの移行が多くなっていることが主な原因と考えられる。
- ・日帰りは温泉施設の増加により減少。
- ・7・8・9月は天候が悪かったため少なかったが、10・11月の紅葉の季節は好調。
- ・稼働率はこの数年ほぼ最大で推移。入らない時期は何をやってもはいらず。(GW前、紅葉シーズン後～年末前等)
- ・海外の方は中華圏およびタイの方が多いが、今年度はヨーロッパ県も微増。
- ・外国人旅行者は受け入れておりません。
- ・変化なし。
- ・当館の宿泊客等のニーズに対しプランを設定。
- ・日帰り客は受け入れていません。
- ・外国人のみの消費単価は出していません。
- ・外国人旅行者は宿泊していない。
- ・単価の低い素泊まり客の増加。
- ・大雪の影響で2～3月の落ち込みが大きかった。
- ・外国人観光客の場合は素泊まりのみ。
- ・経営者高齢のため減少も要因となる。
- ・団体客の減少。
- ・宿泊単価のUP。
- ・宿泊客の減少は微減。確固たる理由はないが、栃木が好調な分（陽明門の端功、JRブレDC等）群馬があおりを受けているとの話もある。
- ・外国人については本年度2,800万人の来日の見込みを受け着実に増加の感。
- ・WEB予約の増加が要因。

- ・景気が上向いた？
- ・外国人が多い。
- ・日本人観光客の方は不変～やや増加気味ですが、外国人の方は受け入れには力を入れていません。これからまた考えていきます。